短期予報解説資料　２０２５年５月２８日０３時４０分発表

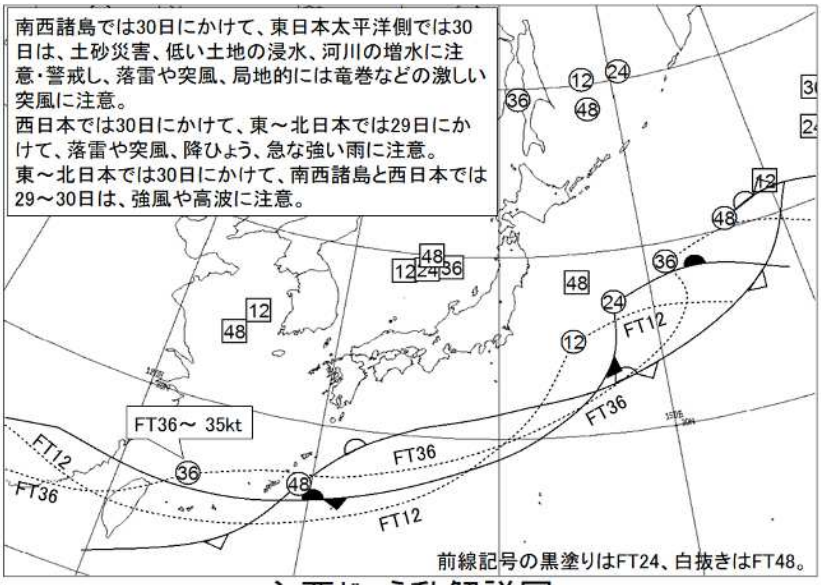
気象庁

１．実況上の着目点

① 沖縄の南～日本の南～日本の東にのびる前線に向かう下層暖湿気の影響で、先島諸島付近では激しい雨を解析、日本の南で雷を検知。

② 東シナ海と日本のはるか東に中心を持つ帯状の高気圧が北～西日本を緩やかに覆っているが、東海道沖の気圧の谷に向かう湿った空気の影響で、東日本ではやや強い雨を解析。

③ サハリン付近を東進する低気圧や①の前線と、②の高気圧との間で気圧の傾きが大きくなり、北～東日本ではやや強い風が吹き、波が高くなっている所がある。



主要じょう乱解説図

④ 500hPa 5700m付近で-18℃以下の寒気を伴う寒冷渦が朝鮮半島付近をゆっくり南下。

２．主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

① 1項④の寒冷渦は、28日は朝鮮半島付近を南下、29日は対馬海峡付近に、30日は西日本付近に進む。

② 北～東日本は29日にかけて、西日本では30日にかけて、1項②の帯状の高気圧に緩やかに覆われるが、2項①の寒気や日中の昇温の影響で、大気の状態が不安定となる所がある。落雷や突風、降ひょう、急な強い雨に注意。

③ 1項①の前線は、28日は、500hPa 5820m付近の正渦度移流に対応して華南にのび、500hPa 5760m付近のトラフに対応して、朝までに前線上の日本の東で発生する低気圧が北東に進む。29日は、2項①の寒冷渦を回る500hPa 5820m付近のトラフに対応して、朝までに前線上の東シナ海で発生する低気圧が南西諸島付近に進み、30日は、この低気圧が日本の南から東海道沖に進む。低気圧や前線に向かう下層暖湿気の影響で、南西諸島では30日にかけて、東日本太平洋側でも30日は、大気の状態が不安定となり、雷を伴った激しい雨や非常に激しい雨が降って大雨となる所がある。土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒し、落雷や突風、局地的には竜巻などの激しい突風に注意。

④ 1項③の低気圧はオホーツク海に進み、28日夜以降不明瞭になる。また、500hPa 5640m付近のトラフに対応する別の低気圧が、29～30日にかけて沿海州付近から千島近海に進む。

⑤ 2項③の前線や低気圧及び2項④の低気圧の周辺では気圧の傾きが大きくなり、やや強い風や強い風が吹き、波が高くなりしける所がある。東～北日本では30日にかけて、南西諸島と西日本では29～30日は、強風や高波に注意。

３．数値予報資料解釈上の留意点　総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。2項①の寒冷渦や2項③の低気圧と前線の予想には、モデル間や初期値による差があることに留意。

４．防災関連事項［量的予報等］　① 雨量(06時からの24時間)：沖縄120mm。② 波浪(明日まで)：沖縄4m、北海道・伊豆諸島・九州南部・奄美3m。③ 高潮(明日まで)：大潮の時期。西日本では、注意報基準を超過する所がある。

５．全般気象情報発表の有無　発表の予定はない。

量的な予報については、今後の状況により変化する場合がありますので、注意報・警報や全般気象情報等に記述する数値を利用願います。